1976年２月25日　第三種郵便物認可（毎週４回　月曜・火曜・木曜・金曜日発行）
2025年８月27日発行　SSKO　協会ニュース　10月号　増刊通巻　第11993号

巻　頭　言

「難聴を生きる　音から隔てられて」の刊行

宇田川　芳江

６月 29 日に行われた一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会（全難聴）の総会で、宇田川は、副理事長・事務局長に選出されました。皆様に助けていただきながら中難協理事長と併せて、与えられた重責を果たしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

全難聴は、北海道から九州までの各難聴者協会が一会員として加盟している連合会で、2025 年現在加盟団体は 48 協会です。

日本で最初の難聴者協会は 1975 年に鹿児島で立ち上がり、その後広島、岡山、京都、高知などで結成されていきました。

要約筆記というコミュニケーション支援の後押しを受け、1972 年には全国難聴者組織推進準備会が発足し、中途失聴・難聴者の福祉を求める運動体として、1978 年に全難聴の前身となる全国難聴者連絡協議会が結成されています。

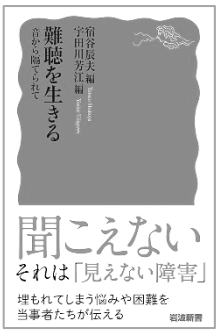
1989 年に全日本難聴者・中途失聴者団体連合会として設立し、2013 年に一般社団法人化して現在に至っています。

1975 年に、『音から隔てられて　難聴者の声』（入谷仙介・林瓢介編）が岩波書店の新書シリーズの１冊として出版されて、今年で 50 年が経過しました。

まだ、中途失聴者や難聴者を取り上げた書物が世の中にほとんど出ていない時代に、この本が大手の出版社から発行された意義は非常に大きいものがありました。

『音から隔てられて』には、13 人の中途失聴者や難聴者の手記が載っています。徐々に聞こえなくなる苦しみ、理解されない悲しみ、無力感、差別への怒り、家族内での孤独感、人と会う恐怖などが赤裸々に綴られています。

出版から 50 年経った現在、中途失聴者や難聴者を取り巻く社会環境は、変化してきました。しかし、人々の心には差別や無理解がなくなったとはいえない現実があります。



全難聴では 50 周年の節目に、この本の第２弾を出版したいと願って準備をしてきました。９月 19 日に『難聴を生きる　音から隔てられて』（宿谷辰夫・宇田川芳江編）と題して刊行されます。

今回は 20 人の方に手記をお願いできました。また、小説家星野智幸さんが「耳のメガネを失くす」というエッセイを寄せてくださいました。

ぜひ一人でも多くの方々に手に取っていただきたいと願っています。